

序

本学では開学以来、研究活動の検証システムの一環として研究活動一覧が継続的に刊行されており、今年度も第25輯の発行を迎えた。

この研究活動一覧の継続的な刊行は学内に競争的環境を生み出し、研究へのモチベーションを高める事に大きく貢献してきた。一方、社会に開かれた大学として本学における研究の質、量を世に問うてきた役割も大きい。その結果、本学の社会的評価は高く、全国600以上に及ぶ研究機関の中で大学機関別の論文数（「大学ランキング2002年版」朝日新聞社）は、薬学は全国4位、神経科学は同20位であり、生薬学の学問分野では和漢薬研究所が1位、医学系研究科生化学系専攻が4位、また薬学研究科薬学専攻は7位に位置付けられている。

現在、本学を含む国立大学が直面している大学の再編・統合と法人化においては評価は避けて通る事の出来ない課題であり、法人化後は運営交付金に大きく影響してくる。研究面において、評価の基礎資料となるのが本誌に掲載されてきた本学の研究活動であり、その有する意味は極めて重い。

この点を見据えて本学研究者が更なる意気込みで研究の質的向上を目指し、新たな大学の局面に当たられることを切望している。

学 長 高 久 晃